若 狭 ネ ッ ト

第68号　2001年　　10月10日
発　行：若狭連帯行動ネットワーク
代表連絡先●福井：「止めなくちゃ！げんぱつ」連絡会(〒915-0235今立郡今立町不老6-36 山崎方 TEL0778-42-3630)●大阪：日高原発に反対する大阪の会（〒583-0005藤井寺市惣社1-1-21 久保きよ子方 TEL/FAX 0729-39-5660）
ホームページ　http://www4.ocn.ne.jp/~ wakasant/　　E-mail: wakasa@gaea.ocn.ne.jp

敦賀3・4号増設反対、もんじゅ運転再開反対の運動を闘おう！

10・26反原子力デー対関電行動、10・28若狭ネット結成10年集会に参加を

原子力推進の巻き返しが始まる

福井県では、原子力の生き残りをかけた原子力推進攻勢が始まっています。

日本原子力発電の敦賀3・4号炉増設計画で、福井県は9月14日、独自に安全性についての報告書をまとめ県議会で報告しました。原発による地域振興が幻想に終わり、先の県自身による総括でそれを認めておきながら、「なぜ今、原発誘致か」という根本問題を棚上げにして、しかも、政府による安全審査を受ける前の、知事が増設を受け入れるかどうかという段階で、「安全だ」と結論づけたのです。これまで、県は、「安全審査は国が一元的に責任を持っている。」「県には国のような専門家を集めての判断能力はない。」と言って自らの責任を回避してきたのではなかったでしょうか。今回、異例にもこのような判断を下したのは一体なぜなのでしょうか。そこにはやはり、原発増設への県民の支持が得られないための焦りがあるのでしょう。空港や新幹線や高速道路の誘致がうまくいかず、「原発誘致で一儲けしたい」という地域ボスの利害が露骨に表に出た結果なのでしょう。

福井県の報告では、敦賀3・4号炉が153.8万kwでフランスの150万kW級原発をも超える世界一の大型原発であり、世界のどこにも運転されていない新型炉であることを隠しています。通常の原発の延長線上に改良標準化を加えた原子炉であるかのように言っていますが、建設費削減のために大幅に何度も設計変更を重ね、出力をどんどん上げていったこと、そのため事故の危険が通常より高まっていることを隠しています。また、敷地が海面の埋め立て地にまたがり、原子炉建屋とタービン建屋で異なる地盤に建つことになり、地震に一層弱くなっていることを隠しています。

10月1日には、福井県議会で「環境エネルギー対策特別部会」が開かれました。その中で「15基体制は定着しており、現時点では尊重すべき」（福井県内には、美浜に3基、高浜に4基、大飯に4基、敦賀に2基、もんじゅ、ふげんで計15基）との意見が相次ぎました。「ふげん」と敦賀1号炉の廃炉で、敦賀3・4号炉の増設を認め、数字あわせをするつもりなのでしょうか。県議会は「知事が判断すべきときに来ている」と増設了承を促そうとしているのです。

また、電力業界は、10月より原発などへの見学者の大幅増を目指し「100万人キャンペーン」を展開するとしています。関電によると、高浜原発のプルサーマル計画への理解を得るため、目標数を14万人に設定し、福井県や近畿地方で職場や学校、自治会などに積極的に働きかけ、送迎バスの輸送力を強化するとしています。しかし、テロ攻撃の危険があるとして10月からの見学は中止されました。

もんじゅについては、改造工事費が来年度予算で概算要求され、安全審査入りの事前了解願いが出されています。当面はこれを了解するかどうかが焦点です。そのような中、福井県は「もんじゅ安全性調査検討専門委員会」を設置し、９月２２日には敦賀市で「県民の意見を聞く会」を開きました。発言者の多くは、「もんじゅの安全性に疑問」との意見で、蒸気発生器の問題や耐震性の危険性を指摘しました。10月27日には福井市で開く予定です。「もんじゅを二度と動かさないで」という22万県民署名の声を踏みにじらせてはなりません。

敦賀3．4号炉増設を取引材料として福井空港、新幹線延長をねらったが、とん挫

原発は「夢のエネルギー」ではなく、地域振興につながらず、むしろ地場産業の育成を阻害する以外の何者でもないやっかいなお荷物になっています。チェルノブイリのような深刻な放射能災害と背中合わせの毎日を余儀なくされ、どこかで事故が起こるたびにヒヤッとさせられるのです。福井県をみても、電源地域では道路や医療施設の整備が遅れ、地元産業の育成なども不十分で、観光産業が打撃を受けたと福井県自身が総括しています。

それでも福井県知事は、増設了承を取引材料として福井空港の拡張や北陸新幹線の福井までの延長を要求していましたが、政府の財政危機のもと実現しませんでした。高速道路も構造改革の中で雲行きが怪しくなっています。原発を受け入れて建設工事で、何とか地域の一時的な潤いを期待するというのが今回の動きです。しかし、ゼネコンの経営危機も重なり、原発建設費の徹底した削減、地元発注業者への工事単価の切り下げが求められています。現に稼動中の原発の定期検査でも、下請け業者への労働過重や締め付けがあり、仕事を請け負っても採算が合わない状態が慢性化してきています。ますます危険性が増大してきているのです。

各地の反対運動は勝利し、推進を押しとどめている

全国各地で、原発新増設反対運動は勝利しています。地域での学習会や署名運動などで、節目節目で粘り強く闘い、原発推進を押しとどめています。新潟県の巻原発の住民投票勝利、三重県芦浜原発計画の白紙撤回、福島県と鹿児島県川内での原発増設計画の棚上げを勝ち取っています。新潟県刈羽村ではプルサーマル計画の是非を巡る住民投票が行われ、勝利しました。

青森県の大間原発では、土地を売らない反対住民のがんばりで、工事が延期しています。

山口県の上関原発1・2号計画も祝島漁協の反対、建設予定点の未買収神社地を所有する宮司の売却拒否、労組・市民グループの反対運動の高まりなどで、押しとどめています。

そんな中、あせる国は、なんとしても原発新増設13基建設を追求し、推進姿勢を強めています。敦賀3・4号炉は、国、県、原電が一体となって強硬に推進しようとしているのです。今こそ粘り強い反撃が求められています。

プルトニウム利用計画の3本柱であるプルサーマルも高速増殖炉もんじゅもふげんもすべて破綻してしまいました。ここでも国の核燃料サイクル政策の生き残りをかけて、強引な推進攻勢をかけています。もんじゅ阻止運動とあわせ敦賀３・４号炉反対の闘いをつくりあげていきましょう。

敦賀３・４号炉といつまで続く原子力依存

敦賀３・4号炉増設の推進する衝動力は、この原発建設工事で何とか仕事にありつき、いっときの地域の潤いを求めるというところにきています。これでは福井県の将来の明るい展望など望むべきもありません。原発のパイオニアということで設立された原電も、電力の自由化、新エネルギー開発や、安い電力源の開発などで、大型原発の開発が将来の主軸になる展望もないまま、原電自体が解体されかねない危機感で強引に進めているだけなのです。

新たなる運動を作り上げよう

若狭ネットは、敦賀３・４号炉反対、プルサーマル計画反対、もんじゅの運転再開の動きに反対し、運動をこれからも粘り強く展開していきます。各地で、ミニ学習会を組織しながら、福井県下の新聞折り込み運動を展開していきます。最近の敦賀３・４号炉と「もんじゅ」を中心に推進の動きをまとめ、今後の闘いを作り上げるために10月28日（日）に大阪で、若狭ネット結成10周年集会をおこないます。 10月２６日は、反原子力デーです。この日、毎年おこなっている対関電行動を計画しています。両日ともみなさんと共に闘いたいと思います。ぜひご参加下さい。

関電は、ＳＭＰとのＭＯＸ加工契約を締結するな！
プルサーマル計画を撤回せよ！ＭＯＸ返還を中止せよ！

英政府がＳＭＰに操業許可

10月 3日、英政府はＢＮＦＬ（英核燃料会社）の新しいＭＯＸ燃料製造プラント（ＳＭＰ）に操業許可を出しました。ＳＭＰは、年間120トンの生産能力を持つ世界最大の商業プラントです。日本の大口需要を見込んでいます。

高浜原発用のＭＯＸ燃料はＢＮＦＬの試験プラント（ＭＤＦ）で製造され、データねつ造が行われ、同プラントは閉鎖されています。関西電力はＳＭＰとのＭＯＸ燃料加工の契約はまだ結んでいません。プルサーマルを中止させ、ＳＭＰとのＭＯＸ加工契約を断念させましょう。

英再処理工場が運転停止に

9月22日付の英「ガーディアン」紙は、英国ＢＮＦＬの２つの再処理工場（ソープとＢ205）の運転停止を報じました。高レベル放射性廃棄物をガラス固化する施設の3つの生産ラインが故障で動いておらず、再処理で発生する高レベル放射性廃棄物が溜まり続けたことが原因だとされています。他方、ＢＮＦＬのソープとの再処理契約については、1994年～2004年まで10年のベースロード契約を結んでいます。しかし、再処理作業の遅れと再処理費用の値上げの申し入れががＯＲＣを通じてなされて、この申し入れに対して、日、独等の電力会社は反発しているとの報道もなされています。

英国に放射能汚染をも転化するＢＮＦＬとの再処理契約を破棄させましょう。

ＭＯＸ燃料返還の事前了解を米に申請

8月 9日、関西電力は、データねつ造が発覚した高浜原発のＭＯＸ燃料を英ＢＮＦＬに返還することに関して、日本政府が日米原子力協定に基づき米国政府に核物質移転申請書を提出しとの発表をしました。原協定では日本に搬入するための規定しかなく、英国に搬出するためには新設が必要となります。

核拡散の危険があり、航路にあたる沿岸諸国に脅威を与える、ＭＯＸ燃料の英国への返還を止めさせましょう。

今後の予定

10月 26日（金）反原子力デー対関電行動

午後４時半から　関西電力本社（地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車）

10月 28日（日）若狭ネット結成 10年集会
緊迫する若狭の動き
耐震指針の見直しの動き

午後 1時半から　東淀川勤労者センター
（JR「新大阪」駅下車・地下鉄「新大阪」駅下車、南東へ歩10分）

11月３日（土）グローバリズムと戦争を考える
日本の「報復戦争」への荷担といかに闘うか

午後 2時～４時半　東淀川勤労者センター
主催：　地球救出アクション97事務局　稲岡

耐震問題申し入れ行動カンパにご協力いただき、ありがとうございました。
9月 19日、原子力安全委員会への「原発耐震設計審査指針改訂に関する申し入れ」行動をおこなうことができました。みなさんから、寄せられたカンパ額は、約 15万円にのぼりました。遠方から参加されたみなさんの片道交通費にあてることができました。
今後ともよろしくお願いします。　　若狭ネット大阪　久保

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　編集後記　◇◆◇

・9月 16日「戦争はいやや 核なんかいらへん２００１フェスティバル」が、大阪長居公園で行われました。今年で 17回目を迎えますが、私たちは毎年参加しています。今年はバザーを行い、２万円の売り上げがありました。これは今後の活動資金にしたいと思っています。チェルノブイリヒバクシャ救援関西は、原発事故の寸劇を披露し、私も出演しました。「戦争も核兵器も原発もいらない」という私たちの闘いがますます重要性をおびてきたと感じています。

アメリカで起きた同時テロ事件は悲惨です。アメリカはテロ壊滅を口実に、ついに10月８日、アフガンのタリバーンに報復爆撃を始めました。日本政府は、これを支持し、自衛隊を派遣しようと新法制定を画策しています。

30年前、原発は「夢のエネルギー」などと宣伝し、今に至っています。60年前には、「正義の闘い」と言い、いつの間にか国民を戦争へ導き、無差別大量殺戮をも行ったのです。

戦争はやっぱりあかん！ テロは、もちろんあかん！ 憎しみは憎しみを生む。冷静に、どうしてテロが起こるのか、その根本原因をしっかりと見つめ、根元を絶ちたいと思います。　きよ子